

活動名：第24回喜多方市長杯蔵のまちフットサルフェスティバル（5年生大会）

日程：令和元年11月30日（土）・12月1日（日）

会場：喜多方市押切川公園体育館

参加：5年生（リフティング記録上位者）8名

帯同：設楽、貝和コーチ

結果：3位/16チーム中

予選リーグ

VS 安積第三 SSS 3：0 ○

VS 興譲小 SSS 9：0 ○

VS Hermanos 5：1 ○      1位通過

決勝トーナメント

VS FCヴェルジナーレ (2：1/1：0) 3：1 ○

準決勝

VS 北部FC (0：2/2：0) 2：2PK4：5 ●

三位決定戦

VS 喜多方中央 SSS (3：1/2：2) 5：3 ○      第3位

5勝1分け 得点 27点 失点 7点

報告：設楽

年末が近付いてくるとこの大会の時期です。

毎年、喜多方サッカー協会様とのご縁からこの大会にご招待をいただき、アーレの恒例行事となりました「喜多方市蔵のまちフットサル大会」に出場しました。

この大会は学年別の大会となっており、5年生が初陣をきりました。来年の1月には4年生大会、2月には6年生大会と続き出場します。

今回の大会の対象選手は、5年生のリフティング上位者8名を選出し、L100クラス5名、Tクラス3名のメンバー構成となりました。フットサルは5名で戦いますが、12分間の前半、12分間の後半戦を通して戦うことは体力的に厳しいもので、交代はやはり必要です。ちょうど良い人数で大会に挑むことができましたが、参加できなかった5年生たちもあり、次の大会に向けて日頃のリフティング記録向上を目指して頑張りたいと思います。

この大会では久しぶりの帯同コーチでしたが、貝和コーチのアシスタントを受け、素晴らしい大会運営の中、今回もドラマティックな「感動」と「しびれる」試合を子ども達が繰り広げてくれました。

「しびれ」が止まらないうちに報告をまとめたいと思います（笑）

さて、試合内容ですが、予選リーグの3試合は危なげなく、毎試合全員出場で勝ちあがりました。しかし、アーレ特有の初戦の立ち上がりの悪さで、安積第三 SSS さんとの試合は苦戦し、自分たちの日頃のプレーがなかなかできず、得点力に欠けなんとか勝利した初戦でした。大会に挑む気持ちが強かったのか、どの子も緊張していたので仕方がないことかと思えます。

予定通りに予選1位通過で決勝トーナメントへ進出することができました。

この大会では、アップ会場の体育館サブコートでボールが使えないことから、試合前のアップ時間、アップのプログラムも通常の大会と違い難しく非常に苦労します。まずは緊張をほぐすために「鬼ごっこアップ」を取り入れましたが、やはり遊びアップではびりっとしない試合の入り方になってしまったので、二日目の決勝トーナメントからのアップはツイッターでもお知らせしたように、しっかりとプログラムを組んで時間調整を図りながらベストなコンディションを維持して温まったカラダを保持し、一気に試合に入り込む形で指揮しました。

一回戦はディフェンディングチャンピオンの保原町から出場してきた「ヴェルジナーレさん」とでした。

決勝トーナメントは全てが厳しい戦いになると思いましたし、子供たちも麻から緊張が酷く、メンタル面で自信を持たせる声かけを重視してアップから盛り上げ、気持ちを高めて初戦に挑ませました。

さて、初戦の内容ですが・・・始まって早々に相手の絶妙なヘディングシュートから失点を許し、このまま気持ちが下がり相手のペースでやられてしまうことが心配されましたが、子供たちは勝利したい気持ちがプレーに強く見られ、果敢にゴールを狙いに行き、前半で逆転。後半にも追加点を取り、強いアーレのサッカーを見せてくれて嬉しい勝利を奪いました。

続いて、新潟県強豪「五泉 DEVA さん」の大勝利で勝ちあがってきた「北部 FC さん」との準決勝でした。

北部さんは毎年、優勝候補の強豪チームなので、子供たちにはこの試合が君たちの決勝戦だと・・・後悔しない全力プレーで挑んでほしいことを伝えました。子ども達の中からは、毎度の事ですが「これを勝ったら焼肉だ」といった変な目標を抱く声が聞こえました（笑）

試合前のサブコートのアップも良い状態で終え、ミーティングでもみんなが集中している様子でした。相手の特徴や注意する点、個々に何をすべきなのかを明確に伝えました。この子たちの可能性を信じて試合に挑みました。

またもや・・・始まって早々に失点を許し、また失点・・・

勝機がないような試合展開でしたが、諦めること無くシュートする場面を作り出し、相手を少々脅かす前半を終えました。はっきり言って2点差は同点にすることはこの流れから奇跡的な展開にならないと厳しいと思いましたが、私がそんなことを考えていては駄目だと、ハーフタイムの3分間では全力で励まし、子ども達の気持ちを高めました。

俺たちは負けないといった顔つきで私の顔を真剣に見てくれていたので、後半は奇跡を信じて見守っていました。しかし、なかなかチャンスをものにできず、このまま終わってしまうのかなと会場の誰もが思ったことでしょう。相手もリスタートに入るボール拾いもゆっくりとやり時間稼ぎが始まったところに・・・強烈なミドルシュートで得点、残り20秒となった時間帯に同点のミドルシュートで追い付き、その後まもなくして試合終了・・・会場は同点にしたことの驚きでどよめき、PK戦となりました。

こんな劇的な試合はあまり見たことが無いでしょう。残り数十秒でも諦めることなく果敢に攻めていった姿勢は、アーセナルが子ども達に浸透しているように思いました。

PK戦は勝敗を決めるゲームのようなもの。どちらが勝っても負けても仕方ありませんが、やはり決勝戦を目の前にすると欲が出ます。子ども達もとても緊張していましたが、キャプテンのあきら君を筆頭に順番を決めて挑ませました。3人蹴っても決まらず、サドンデスのアーセナル先行5人目はポストに嫌われ得点できず、その後に相手が決めて5：6で悔しすぎる惜敗。神様はアーセナルに勝利を与えてくれませんでした。しかし、この敗戦は勝利より今後の子供たちのサッカー人生に大きな影響を与えると良い経験だと思います。

保護者の方々もこんなに成長した子供たちを観ることができたので満足いただけたいと思います。負け惜しみではありませんがPKは勝敗を決めるためのものなので、強豪の北部FCさんと互角の力があつたことは間違い無いでしょう。

チームの結果を求めず、個々の経験の場として捉え、この悔しさをバネにまた頑張つて欲しいと思います。

この悔しい敗戦後は1試合をあけて三位決定戦があるスケジュールで、お昼ご飯も食べる時間が無い中、みんなは悔しさで涙を止めることができない状況でしたが、私も励まし、気持ちを切り替えさせました。

三位決定戦は「喜多方中央SSSさん」でしたが強豪チームでしたので、苦戦はしましたが全員出場して準決勝の悔しさをバネに頑張り無事に勝利することができました。

6試合、点数差での負け無しの価値ある「第3位」入賞でした。

来年の最上級生になる前にこのような悔しい経験ができたことは、これからのサッカー人生に大きく影響します。そして、練習に対する気持ちも今まで以上に真剣な姿勢になってくれると思っています。その気持ちで日々の練習に取り組むと来年の6年生大会ではさらなる成長が見られること間違いありません。

大人たちが見ていて「しびれ」、「感動」させられるような試合ができるようになった子ども達の成長に驚き、嬉しさを感じる二日間でした。

○過去の5年生大会の出場成績

H21年第14回大会 準優勝

H22年第15回大会 準優勝

H25年第18回大会 第3位

H27年第20回大会 準優勝

R元年度24回大会 第3位

二日間、子どもたちへの温かい応援と送迎にご協力をいただきありがとうございました。

そして、大会関係者の皆さま素晴らしい運営の下、試合ができたことに感謝いたします。また、出場チームの皆さんありがとうございました。

コーチ：設楽





